

福井市文化会館整備基本構想

平成 29 年 3 月

福井市

目 次

本 編

はじめに	1
1 基本構想策定の背景	1
(1) 福井市文化会館開館後の社会経済情勢	
(2) 国の文化政策の動向	
(3) 劇場・ホールの変遷および動向	
(4) 福井市の文化芸術に関する施策	
(5) 背景からみる福井市文化会館の位置づけ	
2 福井市文化会館の現状	5
(1) 施設概要	
(2) 利用状況	
(3) 市民意見・関係機関ヒアリング等の結果	
(4) 施設の現況と市民意見・関係団体ヒアリングからみる 福井市文化会館の位置づけ	
3 福井市文化会館の必要性と将来像	10
4 基本理念	11
(1) 基本理念	
(2) 目指す方向性	
5 今後の整備方針	12
(1) 再整備の方向性	
(2) 施設整備の要件	
資料編	15

はじめに

福井市における文化芸術の拠点施設である文化会館は、昭和43年の開館以来、音楽や演劇などの優れた文化芸術に触れる場として、また連合音楽会や学校祭等、各種発表の場として多くの市民に親しまれきました。

しかし、開館から48年が経過し、施設や設備の老朽化が著しいことに加えて、耐震性能の不足やバリアフリー環境の不備、使い勝手や管理上の不具合など、数々の課題を抱えています。このほか駐車場や公共交通など施設へのアクセス環境の改善も必要です。

一方、社会経済情勢の変化や人々のライフスタイルの多様化、地震をはじめとした大規模自然災害リスクの増大に備えた安全確保の必要性など、文化芸術を取り巻く環境が大きく変化しており、文化会館の役割や位置づけを見直す必要があります。

これらを踏まえ、文化会館の現状を把握するとともに、今後求められる役割を幅広い視点から検討し、再整備に向けた基本構想を策定しました。

1 基本構想策定の背景

(1) 福井市文化会館開館後の社会経済情勢

福井市文化会館が建設された昭和40年代は、戦後の高度経済成長期で、人口と産業経済が拡大し、核家族化やモータリゼーションが進展するなど、物質的な豊かさや利便性が享受できるライフスタイルが求められていました。

それから半世紀近くを経て、社会経済情勢は大きく変わりました。時代は成長期から成熟期に移行し、人口減少・少子高齢化が進行しています。環境問題や情報化、グローバル化の急速な進展などを背景として、生産流通・消費構造や生活環境が変化し、人々の暮らし方や働き方、ライフスタイルや価値観が多様化しています。こうしたなかで、近年は、様々な格差の拡大や地域コミュニティの衰退などが社会的な問題となり、日常の生活のなかに「生きがい」や「潤い」といった「心の豊かさ」を求める傾向が強くなっています。

福井市においても、商業の販売額は平成初期を最盛期として下降傾向にあり、製造業の生産額は下降・上昇を繰り返していますが、最盛期の額には及んでいません。人口は平成7年を境に減少に転じています。人口減少・少子高齢化は今後さらに進むことが予測されており、都市と地方の格差が拡大するなかで、交流人口の増大等による地域経済やコミュニティの活性化が大きな課題となっています。

(2) 国の文化政策の動向

平成13年に「文化芸術振興基本法」が制定され、文化芸術の振興に関する施策を総合的に推進するための基本理念が示されました。また基本法では、地方公共団体の責務として、主体的に地域特性に応じた施策を策定し実施することが求められています。

平成24年には、劇場・音楽堂等の活性化を図ることにより実演芸術を振興し、もって心豊かな国民生活や活力ある地域社会の実現等に寄与すること目的とした「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」(劇場法)が制定されました。

基本法に基づき平成27年に国が策定した「文化芸術の振興に関する基本的な方針-文化芸術資源で未来をつくる-（第4次基本方針）」において、「文化芸術は成熟社会における成長の源泉、将来世代のために継承すべき価値といった社会的便益を有する公共財」であり、「子供・若者や、高齢者、障害者、在留外国人等にも社会参加の機会をひらく社会包摂の機能を有している」ことが示されました。さらに、文化芸術は、広く社会への波及力を有しており、「教育、福祉、まちづくり、観光・産業等幅広い分野との関連性を念頭において、それら周辺領域への波及効果を視野に入れた施策の展開が求められる」としています。

◆劇場、音楽堂等の活性化に関する法律前文より抜粋

劇場、音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である。また、劇場、音楽堂等は、個人の年齢若しくは性別又は個人を取り巻く社会的状況等にかかわりなく、全ての国民が、潤いと誇りを感じることのできる心豊かな生活を実現するための場として機能しなくてはならない。その意味で、劇場、音楽堂等は、常に活力ある社会を構築するための大きな役割を担っている。

さらに現代社会においては、劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより「新しい広場」として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。また、劇場、音楽堂等は、国際化が進むなかでは、国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に寄与する「世界への窓」にもなることが望まれる。

(3) 劇場・ホールの変遷および動向

劇場・ホールは、講演や式典などを目的とした「公会堂」から、それに加え演劇からクラシック音楽まで多目的に対応可能な「市民会館・文化会館」へと変化し、さらにより専門性を高めた「主目的ホール・専用ホール」へと変化していきました。

近年の劇場・ホールの中には、鑑賞や発表の場だけではなく、練習や創作など住民が日常的な創造活動を行う機能や、誰でも気軽に立ち寄れる機能を盛り込み、新たな地域交流の誘発を意図した施設が増えています。また、アートマネジメントの専門家の登用や市民とのコラボレーションを通じて、地域の文化芸術水準の底上げと裾野の拡大を目指す事例も見られます。

さらに、地域住民が施設の計画段階から参加し、施設運営に関わることや施設を利用した地域活性化のあり方について検討し実現した事例もあります。

福井市文化会館は多目的ホール主体の施設で、音楽や演劇などの鑑賞や発表、式典や集会等の場としての機能は有していますが、近年求められている「日常的な練習を行う創造の場」や、「気軽に立ち寄れる場」の機能が不足していると考えられます。

※アートマネジメント：文化芸術と地域との関わりを考え、それによって地域文化の向上、創造活動を活性化させる。

※コラボレーション：異なる分野の人や団体が協力して制作を行うこと。

(4) 福井市の文化芸術に関する施策

①第七次福井市総合計画

平成29年度から33年度を計画期間とする「第七次福井市総合計画」では、将来都市像を「みんなが輝く 全国に誇れる ふくい」と定め、以下の文化政策・施策を示しています。

【郷土の文化や歴史、自然を活かした個性的で魅力あるまちをつくる】

○市民の誇りとなる文化芸術を振興する

- ・子どもから大人まで身近に文化芸術に触れ、創作活動に参加できるよう、市民や各種団体の文化芸術活動を支援します。
- ・人材育成や環境の充実、魅力ある企画展の開催などを通して、市民が誇りを持てる文化芸術を振興します。

②福井市教育に関する大綱

平成29年度から33年度を計画期間とする「福井市教育に関する大綱」では、方針のなかで「市民の文化芸術活動を支援し、優れた文化芸術に触れる機会をつくる」と定めています。また、施策の方向性では、「子どもから大人まで身近に文化芸術に触れ創作活動に参加できるよう、市民や各種団体の文化芸術活動を支援します」「文化芸術活動の拠点である文化会館を中心に、担い手の育成と伝統文化や舞台芸術に触れることができる機会の充実を図ります」と示しています。

③福井市文化芸術振興ビジョン

平成19年度に策定された「福井市文化芸術振興ビジョン」では、文化芸術は「心豊かな活力ある社会の形成にとって極めて重要」との認識のもと、“「まず参加 広く発信 未来へ継承」をモットーに文化芸術活動を通じた人づくり”、“誰もがいつでもどこでも文化芸術を楽しむことができるまちづくり”をテーマに掲げています。

また、施策として「文化芸術環境の充実」、「子どもたちの文化芸術活動の推進」、「文化遺産の保存・継承・活用の支援」、「文化芸術活動の担い手育成の支援」、「文化芸術活動の交流と発信の促進」を示しています。

(5) 背景からみる福井市文化会館の位置づけ

文化芸術は心豊かな社会を形成するものであり、このことは今後も変わることなく、極めて重要な意義を持ち続けます。

また、劇場・音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、発信する地域の文化拠点であり、地域における高い水準の実演芸術の振興、交流の促進に寄与する必要があります。

福井市文化会館も、福井市の文化芸術拠点として市民の誇りとなる文化芸術を振興するため、あらゆる市民が身近に文化芸術に触れ、創作活動に参加できるような環境を持つ施設でなければなりません。

同時に、文化芸術を通じて社会的に孤立した人々の社会参加へのきっかけとなる社会的包摂の機能を備えた施設であることが重要で、文化芸術が持つ教育、福祉、まちづくり、観光・産業等幅広い分野への波及効果を活かし、地域コミュニティの活性化と地域の発展を支える施設であることが必要です。

2 福井市文化会館の現状

(1) 施設概要

■ 所 在 地	福井県福井市春山2丁目7番1号
■ 敷地面積	2,690m ²
建築面積	1,974.21m ²
延床面積	5,439.13m ²
■ 構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上4階
■ 竣 工	昭和43年（1968年）4月20日
■ ホ ー ル	定員 1,162名（車椅子エリア 約6台分）
■ 樂 屋	2室
会 議 室	5室
応 接 室	3室
■ 専用駐車場	無し
■ 管理運営	指定管理者

(2) 利用状況

平成27年度のホールの稼働率は44.4%となっており、全国の稼働率の平均（※）を下回る数字となっています。利用団体の内訳は、学校教育関係（37.5%）、主催事業等（22.6%）、文化団体等（20.8%）の順となっており、主に市内の中学校・高校や各種文化団体の発表の場として利用されています。

一方で、営利団体の興行利用は7.7%と低く、その理由としては、施設の老朽化や控室、リハーサル室、搬入口、駐車場などの利便性が劣ることが挙げられます。

○福井市文化会館ホール稼動率・利用人数

	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
ホール稼働率 (%)	48.7	40.4	47.6	43.4	44.4
ホール利用人数 (人)	77,197	69,606	75,104	69,027	81,172

- 過去5年間のホール稼働率は、全国の稼働率の平均48.3%（※）と比較して、ほぼ同水準で推移している
- 樂屋やリハーサル室の不足など施設面での課題を抱えながらも、年間延べ7～8万人の多くの方に利用されている

※1,000席～1,499席のホールの全国平均稼働率（H21年度調査 全国公立文化施設協会）

市内にある主なホール(客席数1,000席以上を対象)の機能や用途を比較すると、県立音楽堂はクラシック音楽に特化した施設で、プロを含む楽団のコンサートやコンクールに利用されており、福井県嶺北地域におけるクラシック音楽の鑑賞、発表、練習拠点となっています。フェニックス・プラザは、ホール利用の柔軟性や規模から、大会・講演会の利用や平土間を利用したパーティ、展示会などの利用、コンサートや演劇の興行利用が多くなっています。

一方、文化会館は、舞台芸術に必要な舞台設備があることから演劇や舞踊（バレエ、伝統芸能）などの利用が多く、可動式の音響反射板などの音響設備を利用した音楽（クラシック）関係の利用も多くなっています。

○市内類似施設の現状

施 設	機 能	主な用途
福井県立音楽堂 (平成9年9月開館)	固定席(1,456席) 音楽専用ホール 鑑賞、発表、練習に必要な諸室を併設	音楽（クラシック）
フェニックス・プラザ (昭和60年11月開館)	可動客席 (2,000席) 多目的ホール 文化交流諸室を併設	音楽（ポップス）、演劇 講演会・説明会、パーティ 学校行事
福井市文化会館 (昭和43年4月開館)	固定席(1,162席) 演劇関連機能（回り舞台、迫り）	音楽（クラシック） 舞踊（バレエ、伝統芸能）、 演劇、学校行事

(3) 市民意見・関係機関ヒアリング等の結果

市民意識調査（回答数1,210件）や文化団体アンケート（回答数56件）、市民アンケート（回答数107件）に加え、市民ワークショップ（3回）を実施しました。また、文化会館関係機関やエンターテインメント事業者、M I C E（※）関係機関等にヒアリングを行い、文化会館の課題や要望を整理しました。

○アンケート、ワークショップ結果（文化会館への要望・期待）

〔要望〕

- ・公演鑑賞の機会・環境の充実
 - （充実した機能が整備されたメインホール、魅力的な公演の開催、活動や公演に関する情報提供の強化）
- ・文化会館の特色である舞台機能の継承
- ・日常的な活動の場、発表の場の充実
- ・気軽に立ち寄れ、交流できる場
- ・福井の文化のアーカイブ機能（保存・活用機能）

〔期待〕

- ・まちが活性化する
- ・文化力が向上する
- ・余暇が充実し、生活スタイルに変化が起きる
- ・社会や世界に目を向けるようになり、多様な文化や価値観を認める人が育つ
- ・市民の主体性や自立性が高まる
- ・明るく豊かで彩りのあるまちになる

全体的に公演鑑賞機会の充実を望む声が多く、ホールに対しては、本格的な舞台機能が求められています。また、文化活動を通じた、日常的な交流拠点・地域の活性化拠点としての役割を期待する意見も多く見られます。

このほか、まちの活性化や文化力向上、市民の生活スタイルのなかに文化芸術活動が加わること等、波及効果を期待する声があります。

○文化会館関係機関ヒアリング結果（施設面の課題）

- ・建物や舞台設備の老朽化や機能不足、耐震性の不足
- ・諸室等設備の不足（駐車場、洋式トイレ、授乳・おむつ換え室、楽屋、練習室、リハーサル室、展示機能、飲食提供機能）
- ・福井駅から距離があり、その他公共交通機関でもアクセスがしづらい
- ・搬入出環境の不備（トラック駐車スペースが不十分、搬入口に段差がある）

文化会館の現状として、施設や設備の老朽化や機能不足等により利用者の要求水準を満たせない、使い勝手に問題がある、耐震性が不足しているなど、様々な課題を抱えています。

今後多くの方に安心して心地よくご利用いただくためには、これらの課題への対応が必要です。

○エンターテインメント事業者等ヒアリング結果

【ヒアリング内容】

〔市場性〕

- ・興行は、出演者によってその地域に「市場をつくる」ことができるため、福井県・福井市に市場性が無いわけではない

〔文化会館の位置づけ〕

- ・フェニックス・プラザよりも少ない集客見込の興行を行う施設、又はフェニックス・プラザの代替として位置づけられている

〔興行利用に求められるもの〕

- ・興行利用には、客席数1,500～1,600席程度の規模は必要
- ・駐車場の確保、公共交通機関のアクセスが便利なこと
- ・搬入口の広さ、搬入経路に段差がないこと
- ・ステージ、舞台袖、舞台裏のスペースが充分にあること
- ・楽屋やトイレがきれいで設備が新しいこと

福井県、福井市に市場性はあるが、興行に適した規模（座席数）や設備等の要件が整った施設が少ない現状にあります。文化会館の興行利用を伸ばし、にぎわいを創出するためには、規模及び設備等の検討が必要となります。

○MICE（※）関係機関等ヒアリング結果

【ヒアリング内容】

〔福井市開催の可能性〕

- ・地理的条件（都心からの移動時間）と知名度から大規模MICEの積極的誘致は難しい

〔施設面に求めるもの〕

- ・主会場として利用できる収容能力
- ・レイアウトの変更要求に応えられること（可変式の客席等）
- ・主会場と分科会ができる会議室等、展示場が同一施設内あるいは近いこと
- ・飲食機能や物販スペースがあること
(会議の合間に休憩ができるカフェ等、懇親会開催にパントリー（配膳スペース）)

福井市への大規模MICE誘致の可能性が低いことから、大規模MICE誘致をメインホール整備の目的（レイアウトの変更要求に対応等）とすることは難しい。

しかし、「経済波及効果」が大きいMICE誘致は、福井市のにぎわい創出の観点から重要であるため、付加施設（展示機能や飲食機能）は、MICE利用も考慮し検討することが必要となります。

※MICE（マイス）

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う会議・大会（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）などを包括した、新たな集客施策をいう。

(4) 施設の現況と市民意見・関係団体ヒアリングからみる福井市文化会館の位置づけ

福井市文化会館は、施設の老朽化のほか、舞台機能や諸室の不足など機能面の課題があるものの、市民が文化芸術を享受する場、多くの学校や文化団体が発表を行う場として利用されており、市内の他の施設では補うことができない多機能舞台を備えた施設として、引き続き必要とされています。

市民意見・関係機関へのヒアリングからは、舞台芸術に必要な設備の更新や魅力的な公演の開催に加え、日常的な練習の場、展示も含めた発表の場、交流の場としての機能と使いやすい施設整備が求められています。

以上のことから、文化会館は、地域の文化芸術活動の拠点として、文化の振興を果たすとともに、地域にぎわいをもたらすことができる施設であると位置づけられます。

3 福井市文化会館の必要性と将来像

文化芸術は、市民の創造性を育み、心のつながりや相互に理解し尊重し合い、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成します。また、文化芸術は市民一人ひとりのふるさとに対する愛着と誇りを育てます。

市民が豊かさを実感できるまちづくりのためには、身近に訪れることができ、子どもの頃から文化芸術に触れ合い楽しめる、文化創造の拠点が必要です。

さらに、今後の北陸新幹線福井開業などを見据え、県都である福井市の魅力を高め、誰もが住み続けたい、住んでみたいと思えるふくいの創造に寄与することが求められています。

福井市文化会館は、福井市の文化芸術のシンボルとして約半世紀にわたり市民に愛されてきました。そして現在も、市民が優れた文化芸術を享受する場であるとともに、日頃の文化芸術活動やその成果を発揮する晴れの場、市内の他の施設では補うことができない機能を備えた施設として、福井市の文化振興に不可欠な拠点施設です。

一方、社会経済情勢やライフスタイルの変化は、文化芸術を享受する場としての役割に加え、日常的な交流の場や文化芸術が持つ観光・産業など幅広い分野への波及効果を活かした地域活性化など、文化会館に新たな役割を求めています。

これらの求められる役割や、市民の意向を踏まえ、福井市の文化振興において文化会館が目指すべき姿（将来像）を以下のように整理します。

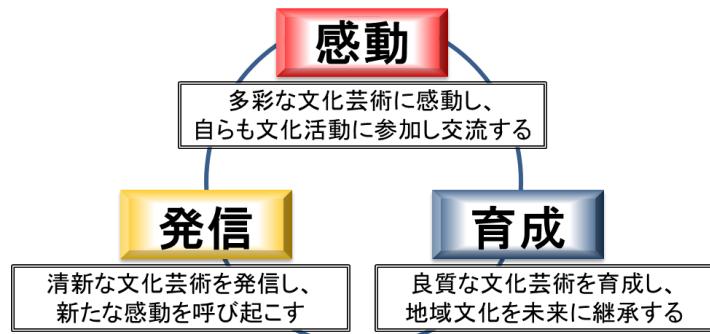
《福井市文化会館の将来像》

- ・多くの人々が質の高い文化芸術を享受します。
- ・多くの人々が文化芸術を介して時間と場所を共有し、様々な交流を生みだします。
- ・多くの人々が郷土の文化芸術や伝統文化に接することで、豊かな創造性や感受性を育み、ふるさとへの誇りを醸成します。
- ・多くの人々がさまざまな形で文化芸術を体験し、より高いレベルを目指して練習し、発表、発信します。
- ・文化芸術が持つ幅広い分野への波及効果が活かされ、地域コミュニティの活性化と地域の発展を支えます。

4 基本理念

(1) 基本理念

福井市文化会館の将来像を見据え、基本理念を次のように定めます。



(2) 目指す方向性

①鑑賞の場をつくる（鑑賞機能）

子どもから大人まで身近に文化芸術に親しみ楽しむ機会を広く提供し、市民が豊かさを実感できる場を目指します。利用者が快適に鑑賞できるよう質の高い本物の環境を整え、多彩で良質な公演を行えるよう出演者・企画者に配慮します。

②交流と活動の場をつくる（交流機能）

世代を超えて「仲間がいつも集まる場」を目指し、新たなコミュニケーションやネットワークが芽生える施設とします。

社会的に孤立した高齢者、障がい者、青少年などに対して文化活動への参加・参画を促し、文化芸術を通して社会参加のきっかけが得られるような「社会的包摶」（※）の機能を備えた施設とします。

③創造支援・人材育成の場をつくる（創造機能）

日常的な創作活動の場であると同時に、その成果を披露できる晴れの場とし、文化芸術の創造と発展を支える施設とします。また、専門家などの協力を得て劇場・ホールを支える人材を養成します。

④地域文化の継承と活用（継承機能）

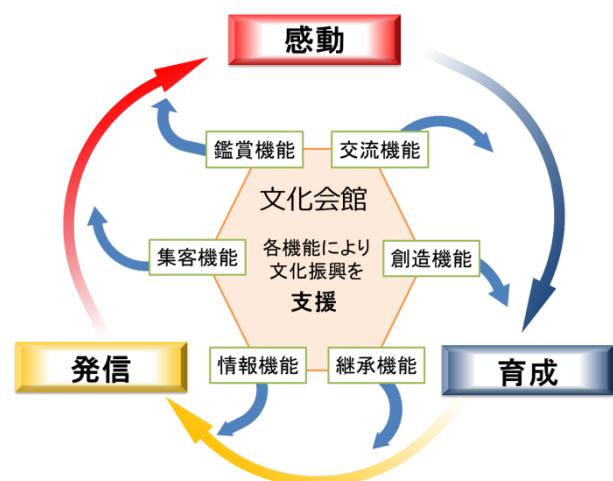
郷土芸能など地域に根ざす文化を積極的に活用し価値を再発見することで、地域文化の持続的な発展を目指します。

⑤文化情報の収集と発信（情報機能）

文化団体の紹介や文化活動の魅力、各種イベント・企画の広報など、幅広い文化芸術の情報を発信します。また、各地の最新の文化芸術情報を受け取ることができる情報拠点を目指します。

⑥人が集まる場をつくる（集客機能）

気軽に文化芸術に触れることが出来る誰でも立ち寄りやすい施設とします。交流人口を増やし、新しい人の流れが生まれることで、まちにぎわいを生み出すことを目指します。



※社会的包摶：ここでは、「子ども・若者、高齢者、障がい者、在留外国人などの社会参加のきっかけづくりの一助を、文化芸術を通して担うこと」とします。

5 今後の整備方針

(1) 再整備の方向性

昭和43年に開館し、48年が経過した福井市文化会館は、施設本体・設備の老朽化や耐震性能の不足から再整備が必要です。再整備の方法には、「改修」と「建替（移転新築を含む）」があります。

文化会館は、イベント機材等の搬入経路や、トイレ設備、施設のバリアフリー、楽屋や練習室・リハーサル室、新しい演出に対応するための舞台設備等の機能が不足しており、現在のままでは、今後利用者が減少するものと懸念されます。

また、文化会館は、ホールと会議室を主とした構成となっていますが、基本理念に掲げている「感動」「育成」「発信」を元に文化芸術の創造、発信や交流を行い、多彩で良質な公演鑑賞の機会を市民に提供するには、施設機能の拡充が必要です。しかしながら、「改修」による再整備では、これらの不足している機能の大きな拡充を見込めないため、基本理念の実現は困難であると考えます。また、耐震補強工事も必要となるなかで、改修期間中は文化会館を使用できなくなるという問題があります。

このように「改修」による再整備は、初期費用は抑えられるというメリットがあるものの、前述した機能不足の改善が十分に図れないと改修中の使用中止に加え、施設の耐用年数の大きな伸びは期待出来ないため、早い段階で再び整備を検討しなければならないという課題が残ります。

そこで、文化会館の魅力向上と、さらなる利用促進、そして福井市の文化振興の効果的な推進を図るため、「建替」による再整備を基本として検討を進めます。

(2) 施設整備の要件

①ホール

- ・ 文化会館の利用状況、需要、市内の類似施設との機能・用途の分担を考慮し、舞台芸術に重点を置き、音楽での利用性能を向上させる技術を取り入れたホールとします。
- ・ 音響効果や舞台の見やすさに配慮した客席を検討します。
- ・ 舞台大道具や楽器等の搬出入動線、利用者の動線などに配慮し利便性を高めます。

②練習室・会議室

- ・ 需要が高いことが見込まれることから日常的な練習や創作活動、打合せ等を行える施設の設置を検討します。
- ・ 先進事例や施設の面積要件、各機能の必要性を参考にリハーサルや発表、展示企画の場など多目的に利用できる諸室の整備の検討を進めます。

③展示スペース

- ・ 絵画、書道など生活文化活動の発表ができる場所を共有スペースに設けるなど、気軽に文化芸術に触れることができる機能を検討します。

④交流スペース

- ・様々なジャンルの文化活動に関わる市民や来館者が、会話を交わし情報交換できるようなスペース（たまり場）の設置を検討します。訪れた人々が、文化芸術の香りを感じながら、心地よく過ごせる環境を目指し、文化芸術へのきっかけづくりを促します。

⑤公共交通と駐車場

- ・利用者の利便性に配慮し、公共交通のアクセスを重視して検討します。また、県都の集客施設として、一定数の駐車場整備を検討します。

⑥その他

- ・共有部分については、利用者の使い易さ、運営のしやすさを重視し、検討します。
- ・誰もが利用しやすい施設を目指し、バリアフリーへの対応等を行います。

資 料 編

- ・ 福井市文化会館整備基本構想策定の経緯
- ・ 福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会 委員

- 1 福井市文化会館の位置、周辺状況
- 2 福井市文化会館の利用状況
- 3 福井市内主要ホール比較
- 4 市民の文化活動・意見
- 5 エンターテインメント関連調査
- 6 MICE 関連調査

福井市文化会館整備基本構想策定の経緯

■福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会の協議経緯

年月日	検討項目
平成 28 年 10 月 19 日	第1回策定委員会 劇場・ホールの傾向と文化会館の現状と課題
平成 28 年 11 月 29 日	第2回策定委員会 第1回策定委員会における質疑事項 現況調査 施設の目指す方向性（案）
平成 29 年 1 月 25 日	第3回策定委員会 基本構想（素案）について

■市民意見等調査経緯

○市民意識調査・アンケート関係
・市民意識調査実施　(平成 28 年 6 月 9 日～6 月 28 日)
・文化団体アンケート調査実施　(平成 28 年 9 月 16 日～10 月 14 日)
・市民アンケート調査実施　(平成 28 年 10 月 20 日～11 月 30 日)
○市民ワークショップ関係
・第1回市民ワークショップ実施　(平成 28 年 11 月 16 日)
・第2回市民ワークショップ実施　(平成 28 年 12 月 7 日)
・第3回市民ワークショップ実施　(平成 29 年 1 月 13 日)
○事業者ヒアリング関係
・ホール施設運営団体、関係事業者、関係機関ヒアリング調査実施 (平成 28 年 8 月～平成 29 年 1 月)
○パブリックコメント公募　(平成 29 年 2 月 27 日～3 月 13 日)

福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会 委員

氏名	所属
石丸 浜夫	福井市議会議員
今村 辰和	福井市議会議員
小原 勉	福井市文化協会会长
古石 三千代	福井市 PTA 連合会特別委員長
友廣 みどり	(株) ウララコミュニケーションズ取締役
中嶋 茂男	(一社) 福井県文化協議会会长
○ 中西 賢也	福井市特命幹
野坂 鐵郎	(公財) 福井観光コンベンションビューロー理事長
野嶋 慎二	福井大学大学院工学研究科 建築建設工学専攻教授
長谷川 季美	福井市成和中学校教諭
◎ 山崎 茂雄	福井県立大学経済学部 経済・経営学研究科教授

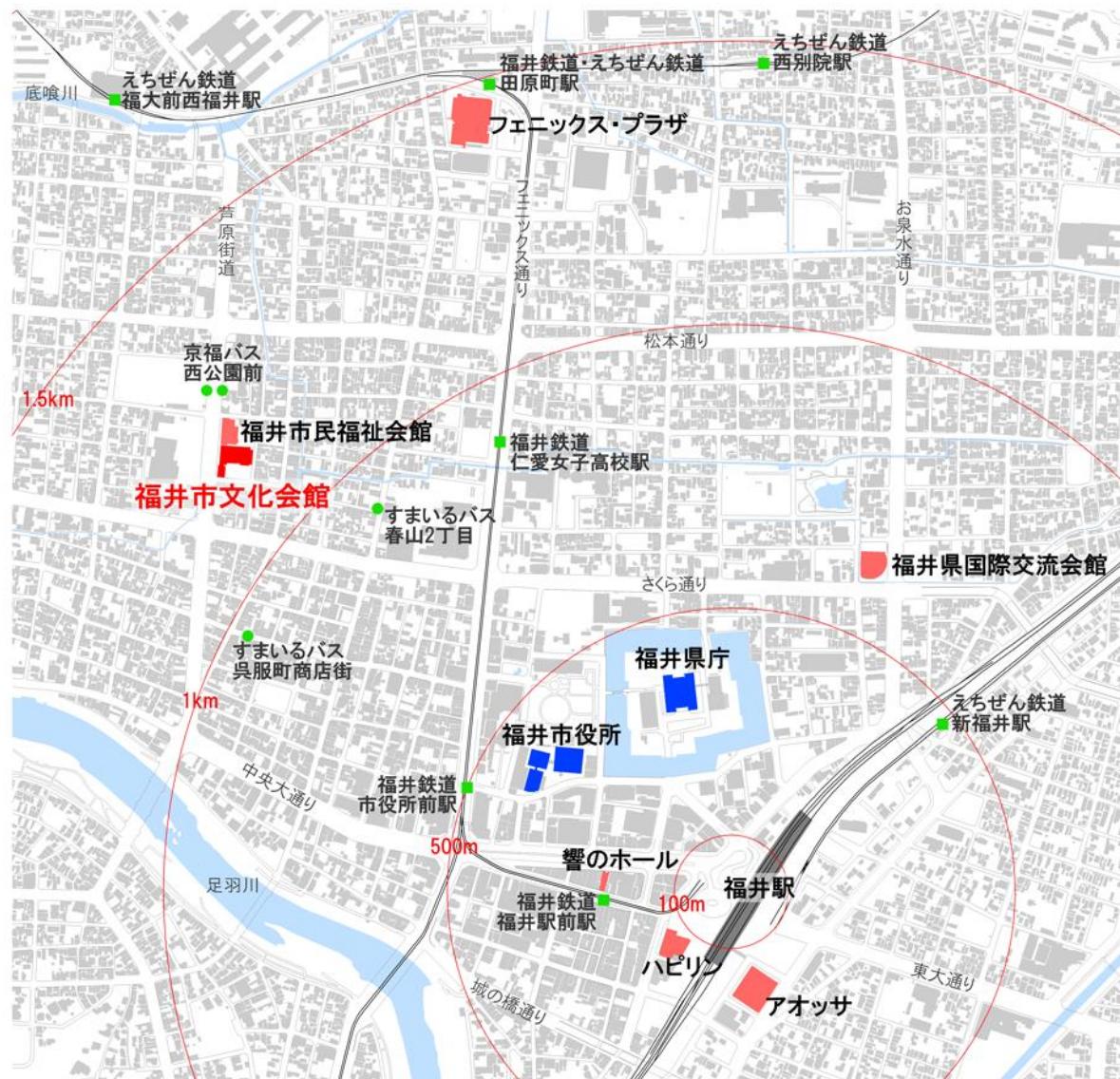
(五十音順 敬称略、◎…委員長、○…副委員長)

1 福井市文化会館の位置、周辺状況

福井市文化会館は福井駅の北西約1.2kmに位置しています。

公共交通を利用する場合は、京福バス「西公園前」、福井鉄道「仁愛女子高校」から徒歩でアクセスすることとなります。便数が多くないため、公共交通機関での来館に不便を感じる声もあります。

また、周囲には寺社が多いほか事業所や店舗等と住居が混在する市街地が広がっており、中心市街地に近接しているが、飲食店は近くに少ないという状況にあります。



2 福井市文化会館の利用状況

①ホール稼動率

過去7年間における文化会館のホール稼動率は、概ね40%台で推移し、年々低くなっています。

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
貸出可能日（日）	327	359	315	359	359	359	360
利用日数（日）	162	138	153	145	171	156	160
ホール稼働率（%）	49.5	38.4	48.6	40.4	47.6	43.5	44.4

	H21 年度		H22 年度		H23 年度		H24 年度		H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	休日	平日												
貸出可能日（日）	108	219	116	243	102	213	115	244	115	244	114	245	118	242
利用日数（日）	77	85	80	58	69	84	67	78	85	86	69	87	70	90
本番利用日数（日）	46	36	39	25	42	34	37	35	47	42	35	34	37	26
本番以外利用日数（日）	31	49	41	33	27	50	30	43	38	44	34	53	33	64
ホール稼働率（%）	71.3	38.8	69.0	23.9	67.6	39.4	58.3	32.0	73.9	35.2	60.5	35.5	59.3	37.2

過去7年間においては、休日のホール稼働率は60%前後、平日は35%前後となっています。

②ホール利用人数内訳

近年低下していた利用人数が、平成27年度では8万人を超え、大幅な増加となっています。各文化団体の発表等の本番1回あたりの利用人数は過去7年の平均が834人で客席数の約7割、平成27年度は1,038人で客席数の約9割となっています。

利用人数	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
本番	76,793	63,981	70,691	60,256	69,820	61,693	72,645
本番以外 ※1	6,665	6,740	6,506	9,350	5,284	7,334	8,527
合計（人）	83,458	70,721	77,197	69,606	75,104	69,027	81,172

本番利用人数（人）	76,793	63,981	70,691	60,256	69,820	61,693	72,645
本番回数（回）※2	82	72	90	82	104	79	70
平均利用人数（人/回）	937	889	785	735	671	781	1,038

※1 本番以外：練習、リハーサル、本番準備等での利用。

※2 本番回数：一日に一団体が2回本番を行った場合、一日・1件・2回と数える。（日数と件数、回数が異なる場合がある）

③ホール利用区分内訳

近年では、リハーサル利用が増えてきています。

利用区分	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
本番	82	65	76	72	90	69	63
本番以外 ※1	81	77	81	76	85	92	105
合計（件）※2	163	142	157	148	175	161	168

※1 本番以外：練習、リハーサル、本番準備等での利用。

※2 利用件数：一日に複数団体が利用した場合、複数件と数える。

④ホール利用ジャンル内訳

音楽（クラシック）の他には舞踊（バレエ・伝統芸能等）での利用が多く、演劇利用も増加しています。

利用ジャンル	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
演劇	17	14	15	29	48	31	23
音楽 クラシック	13	28	38	19	39	38	66
音楽 ポピュラー	10	16	28	13	12	8	5
舞踊（バレエ・伝統芸能等）	10	57	44	43	29	40	35
演芸・落語	16	7	6	13	8	3	5
大会・講演会	11	3	2	2	17	16	4
その他	86	17	24	29	22	25	30
合計（件）	163	142	157	148	175	161	168

⑤ホール利用催物件数と利用団体数

自主事業や（特非）福井芸術・文化フォーラムの事業での複数日数を利用する催物の他に、入念な準備・リハーサルを経て本番を行っているため、催物件数は多いが利用団体は大きな増加をしていません。利用団体としては、学校関係、公社・NPO等、文化団体の利用割合が多くなっています。

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
催物件数（件）	163	142	157	148	175	161	168
利用団体数（団体）	63	43	40	41	52	44	49

H27 年度 利用団体ジャンル	本番 (日=件) ※1	本番回数 (回)	本番以外 (日)	本番以外 (件=回) ※2	計 (件)	人数		人数 (1回あたり)	
						本番 (人)	本番以外(人)	本番 (人)	本番以外(人)
行政	9	13	5	5	14	16,050	250	1,235	50
公社・NPO・協会	12	12	26	26	38	8,786	1,640	732	63
学校	20	20	39	43	63	20,363	4,252	1,018	99
文化団体・教室	8	8	27	27	35	9,524	2,035	1,191	75
興行・イベント	11	14	2	2	13	15,098	150	1,078	75
企業・団体（会議集会）	3	3	2	2	5	2,824	200	941	100
計	63	70	101	105	168	72,645	8,527	1,038	81

※1 一日に複数団体が本番利用をした場合はなく、本番日数と本番件数が同数となっている。

※2 一日に一団体が本番以外利用で複数回利用した場合はなく、件数と回数が同数となっている。

3 福井市内主要ホール比較

福井市文化会館開館以降、福井市内においてホールを持つ公共施設が建設されてきました。このうち客席数が1,000席を超える施設について比較を行い、各施設の特色をまとめました。

①施設概要

	福井市文化会館	フェニックス・プラザ 大ホール	福井県立音楽堂 大ホール
施設概要			
施設設置目的等 (条例より抜粋)	市民の文化及び教養の向上	豊かな生活環境形成と生涯学習推進のために文化交流等を深める場	県民の音楽文化の振興、芸術文化の向上
開館年	1968年(S43年)	1985年(S60年)	1997年(H9年)
立地・アクセス	中心市街地外縁部 福井駅1.2km 福井鉄道仁愛高校駅500m 京福バス西公園前停留所前	中心市街地外縁部 福井駅1.5km 福井鉄道・えちぜん鉄道 田原町駅	福井市南部 福井駅6km 福井鉄道 ハーモニーホール駅
敷地面積 建築面積 延床面積	2,600 m ² 1,974 m ² 5,439 m ²	15,326 m ² 5,687 m ² 13,488 m ²	67,136 m ² 8,310 m ² 11,649 m ²
ホール概要			
席数	1,162名	2,000名	1,456名
用途	多目的	多目的	音楽専用
舞台 (幅×奥行×高さ)	18×14×8(m)	19×14×8(m)	24.4×13.5×15.4(m)
ホールの特徴	カバット、回り舞台、迫り	可動席	ハーモニーホール、ひな壇迫り
併設施設			
ホール	—	小ホール(500席)	小ホール(610席)
楽屋	2	7+1(控室)	11+1(控室)
リハーサル室	—	1	1
練習室	—	—	6
会議室	5	7	1
その他	応接室3	和室2、茶室1、応接室1、映像ホール1、トレーニングルーム1	和室樂屋1、展示室1
駐車場	なし(近隣駐車場70台)	403台	約600台
H27年度ホール年利用状況			
利用者数	81,172人	155,634人	108,838人
本番利用者数	72,645人	152,314人	—
稼動率	44.4%	38.3%	78.3%
利用日数 利用可能日数	160日 360日	138日 360日	249日 318日
本番回数	70回	111回	86回
本番1回あたり 利用者数	1,038人/回	1,372人/回	1,265人/回 ※1

※1 年間利用者数を本番利用者数として集計

②施設の特徴

【福井市文化会館】

- ・減免制度を利用して、リハーサルや練習など気軽に利用されています。
- ・市内学校や文化団体の利用割合が高くなっています。
- ・音楽（クラシック）を中心に、バレエの公演・練習、その他伝統芸能などの舞踊、自主事業による演劇などに多く利用されています。
- ・その他、文化祭や卒業式などの学校行事利用も多くなっています。
- ・興行（鑑賞）やコンベンション等の利用は少ない状況です。
- ・会議室は企業団体の会議研修・説明会等が多く、文化関連活動はわずかです。

⇒ 市内学校や文化団体の発表会や練習など、アマチュア主体の文化活動拠点

【福井市フェニックス・プラザ】

- ・貸館主体となっています。
- ・大ホールでは、規模を活かした企業・団体による大会や講演会・説明会での利用割合が高くなっています。
- ・客席を動かして平土間空間をつくり、パーティや展示会などにも利用しています。
- ・音楽（ポップス）コンサートやミュージカル、演劇の興行利用が多く見られます。
- ・その他、学校の式典行事や企業による有料イベントも行っています。
- ・減免割合が低いため、学校行事や、リハーサルとしての利用が少なくなっています。

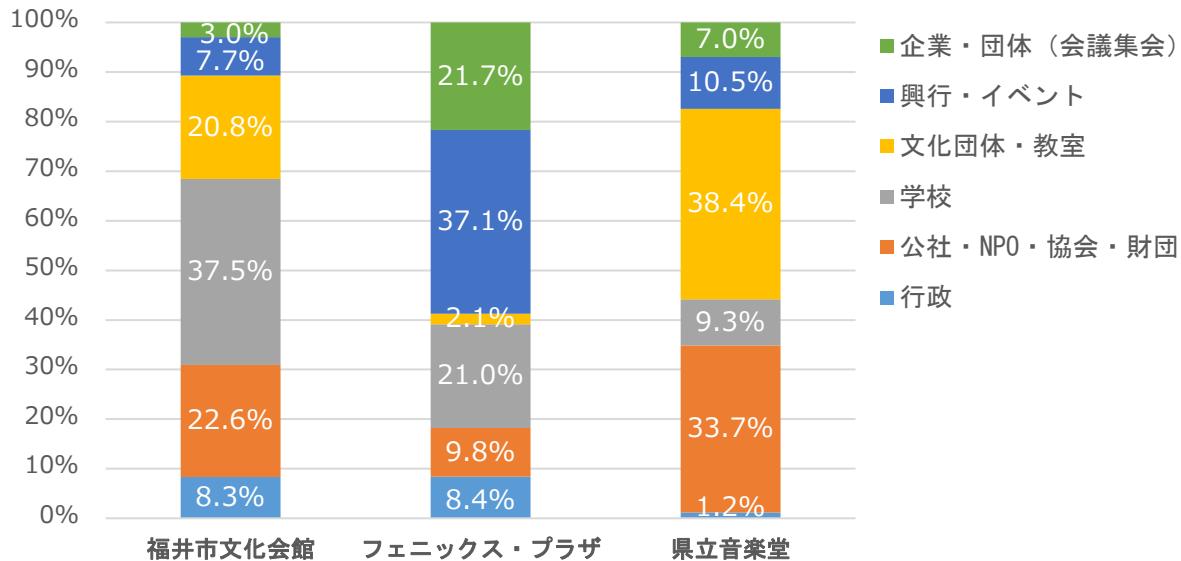
⇒ ホール利用の柔軟性（可動式の客席等）や規模を活かした興行、企業や団体の大会・集会・パーティ等、各種イベント・交流拠点

【福井県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）】

- ・大ホールは音楽（クラシック）に特化した施設であることから、プロを含む楽団のコンサートやコンクール、文化団体による演奏会・発表会での利用がほとんどとなっています。
- ・小ホールはピアノの発表会やリサイタルなどが主軸で、予約できないケースがあります。
- ・郊外に立地し、車のアクセスが容易で駐車場が600台あること、音響の良さが高く評価されています。
- ・夜22時まで使える練習室の利用率（日）は100%近くとなっています。

⇒ 福井県嶺北地域におけるクラシック音楽鑑賞、発表、練習拠点

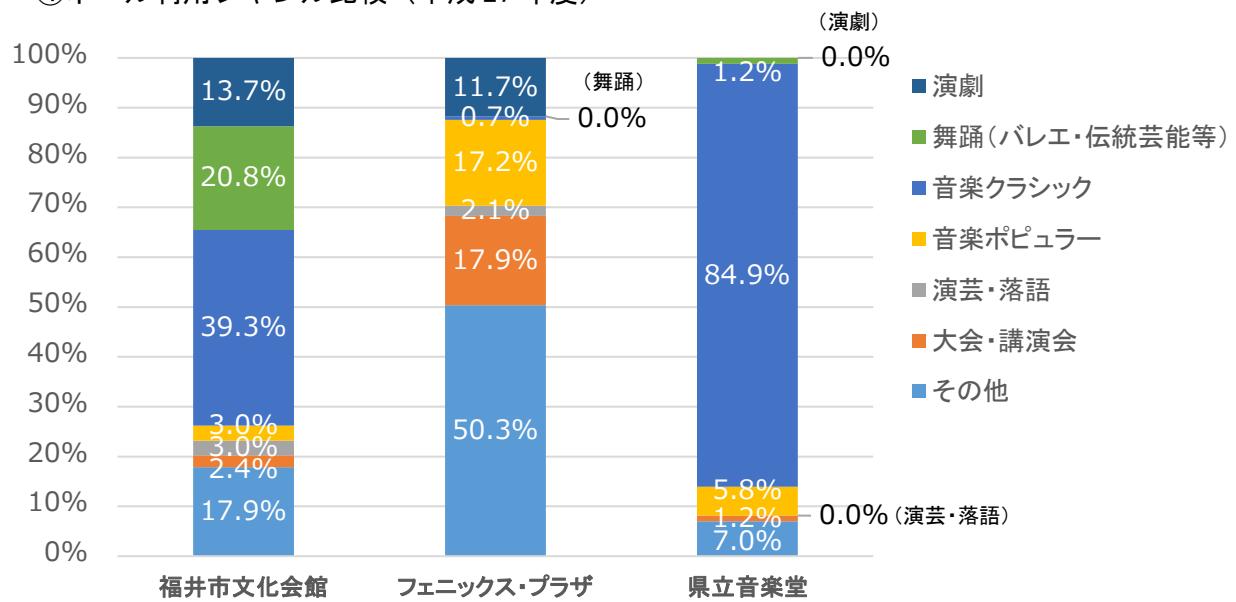
③ホール利用団体比較（平成 27 年度）



※小数点以下端数処理のため合計値が 100% となっていない

- ・文化会館は、行政・NPO の他、地元文化団体、教育機関等の利用が大半で、企業・団体や興行・イベントの利用はわずかです。
- ・フェニックス・プラザは、イベント企画者やメディア等の利用（興行）が多く、学校、企業も利用しています。
- ・県立音楽堂は、プロ、文化団体（合唱・吹奏楽連盟等）、大学（OB 含む）や高校の楽団利用が主体となっています。

④ホール利用ジャンル比較（平成 27 年度）



※小数点以下端数処理のため合計値が 100% となっていない

- ・文化会館は、演劇や音楽（クラシック）、舞踊（バレエ・伝統芸能等）の発表会など文化活動が 8 割を占め、残りは学校式典、大会、講演会などとなっています。
- ・フェニックス・プラザは、ポップスを主体とした音楽で約 2 割。その他、各種行事、式典、大会、講演会、平土間を利用したパーティ、展示会など様々に利用されています。
- ・県立音楽堂は、クラシック音楽が大半を占めています。

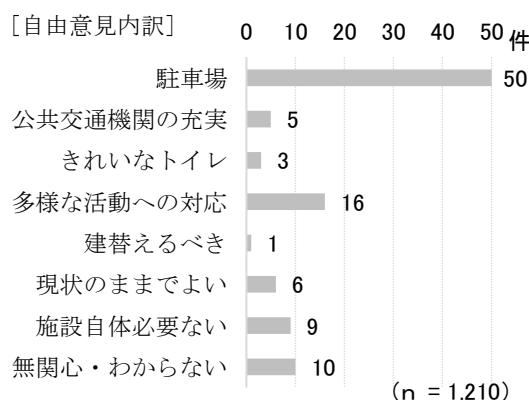
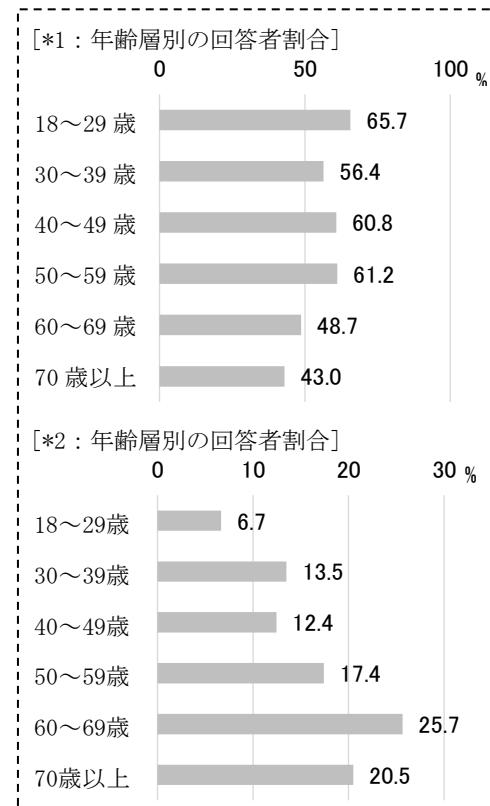
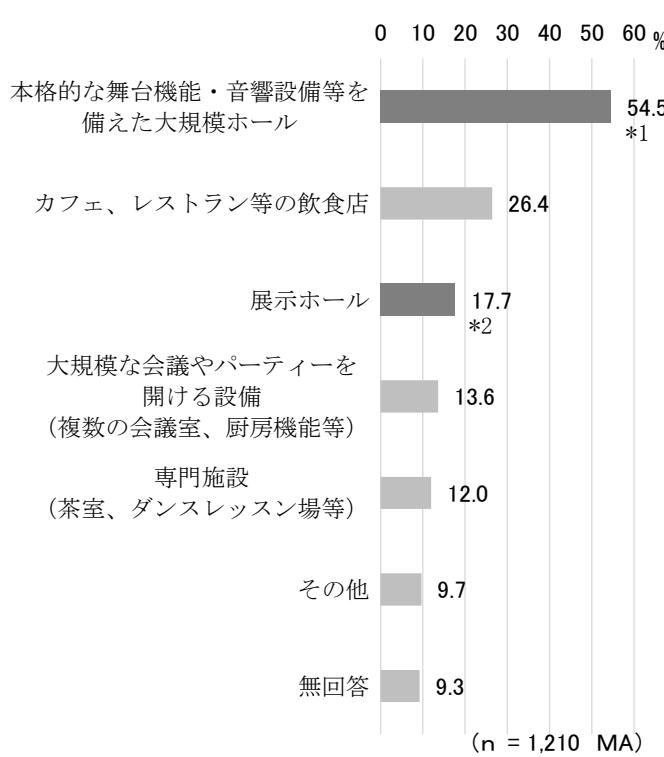
4 市民の文化活動・意見

①文化会館に関する市民意見（平成28年市民意識調査より）

市の現状やまちづくりの取組に対する市民意識や、重要と思われる施策、課題等を把握し、今後のまちづくりの参考とするために実施された市民意識調査において、文化会館に関する意見は下記のとおりです。

n:回答者数
MA:複数回答

【あなたが文化会館に求める機能は何ですか】



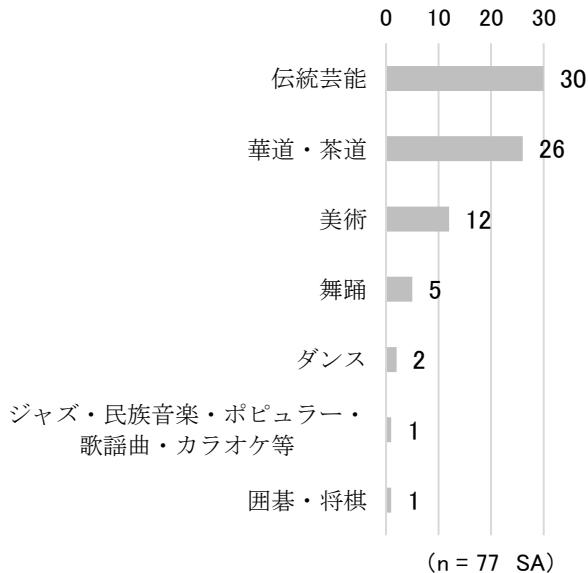
- ・全世代の人が、文化会館に対して本格的な機能の整備を望んでいます。
- ・展示ホールについては世代が高くなるにつれて整備要望も増えています。
- ・駐車場の不足や多様な活動への対応の意見が多くありました。

②文化団体アンケート

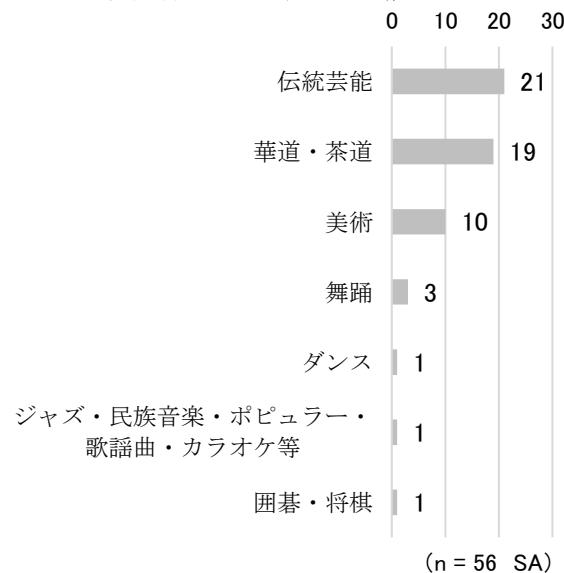
福井市文化協会に所属する77の文化団体へ、文化団体の日常活動場所や発表の活動場所などについてアンケートを実施しました。

n:回答者数
SA:単回答
MA:複数回答

[文化協会所属団体活動ジャンル内訳]

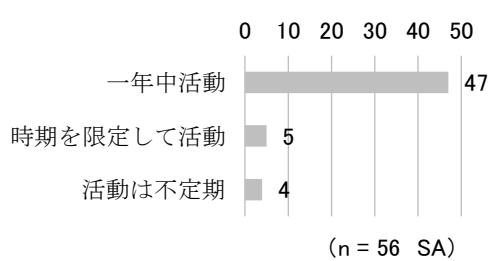


[回答団体活動ジャンル内訳]

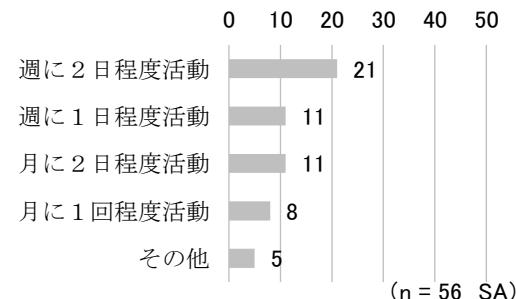


【普段の活動】

[活動時期について]

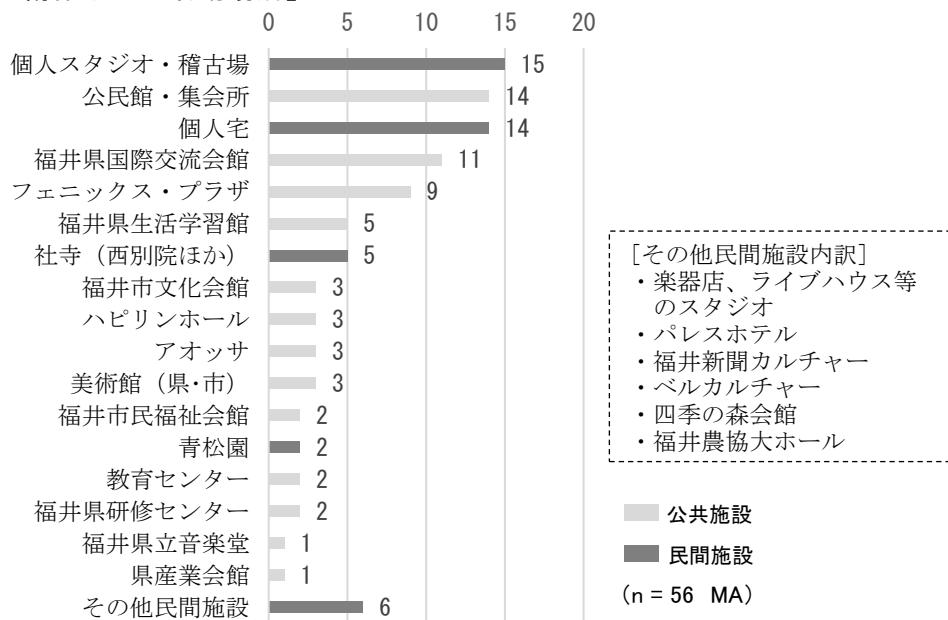


[活動頻度について]



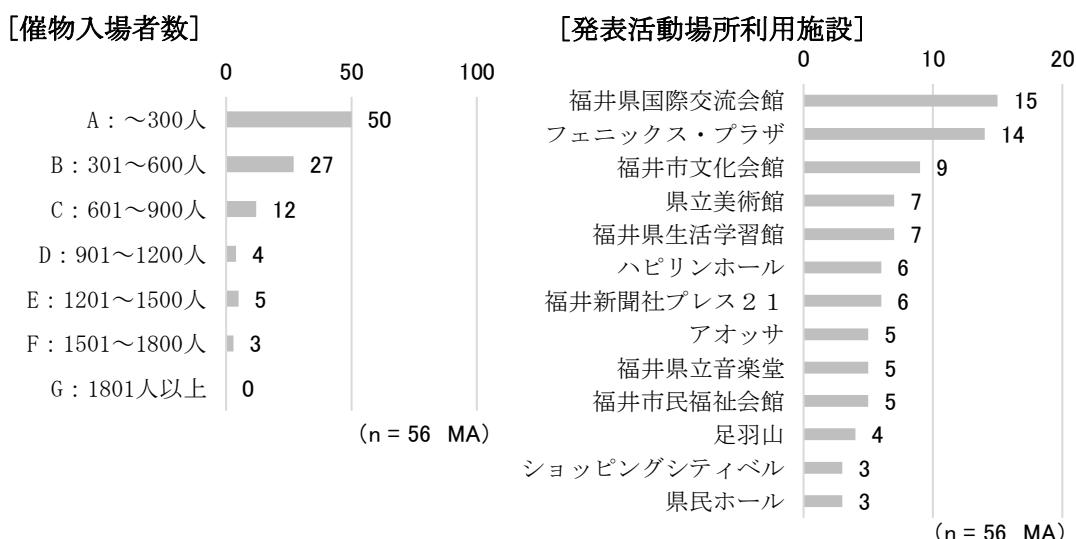
- ・ほぼすべての団体が一年中活動しており、週に1日以上活動している団体が半数以上となっています。

【練習・稽古・創作などの活動場所】



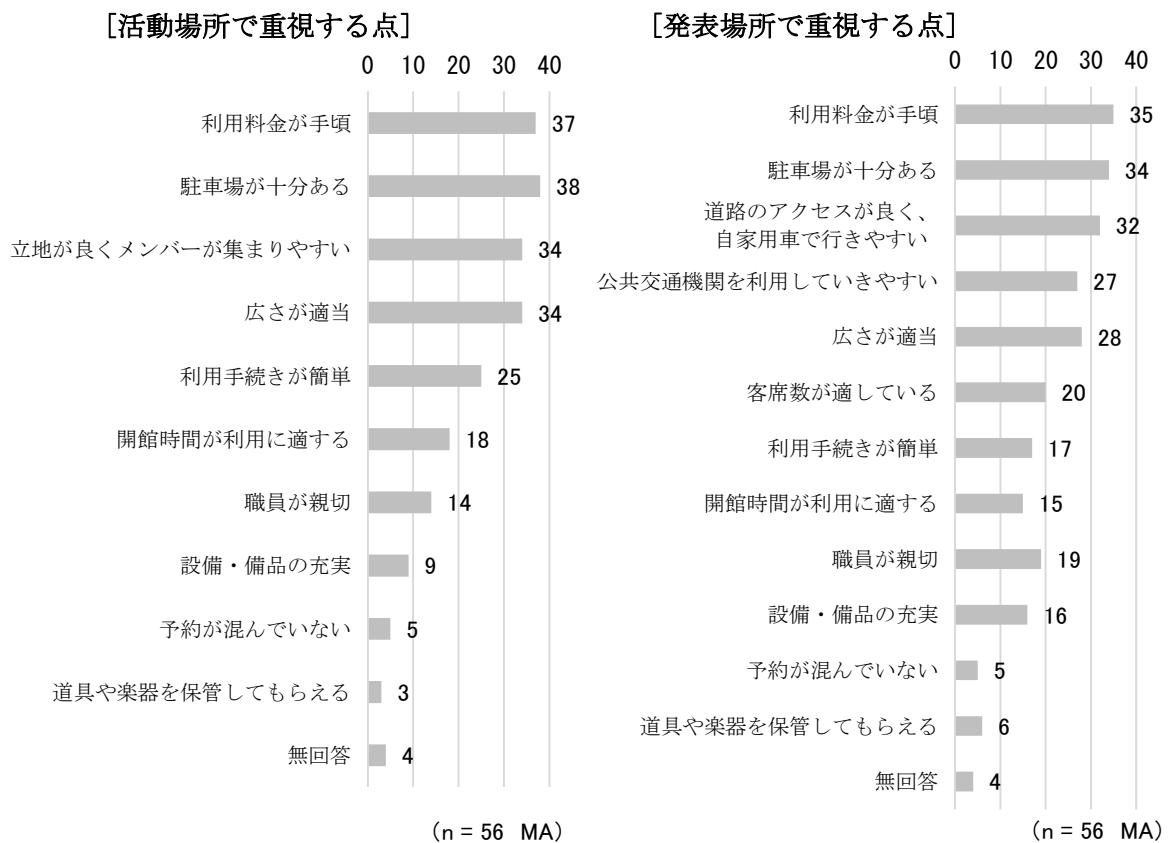
- 練習場所としては、個人の自宅や団体のスタジオ・稽古場、公民館・集会所が半数以上を占めています。
- 伝統芸能の分野では、ハピリンホール、福井県生活学習館、個人宅が挙げられています。
- 華道・茶道などの活動では福井県国際交流会館の利用が最も多くなっています。
- 絵画・書道などの活動ではフェニックス・プラザ、美術館が挙げられます。

【発表・公演・展示などの活動場所】



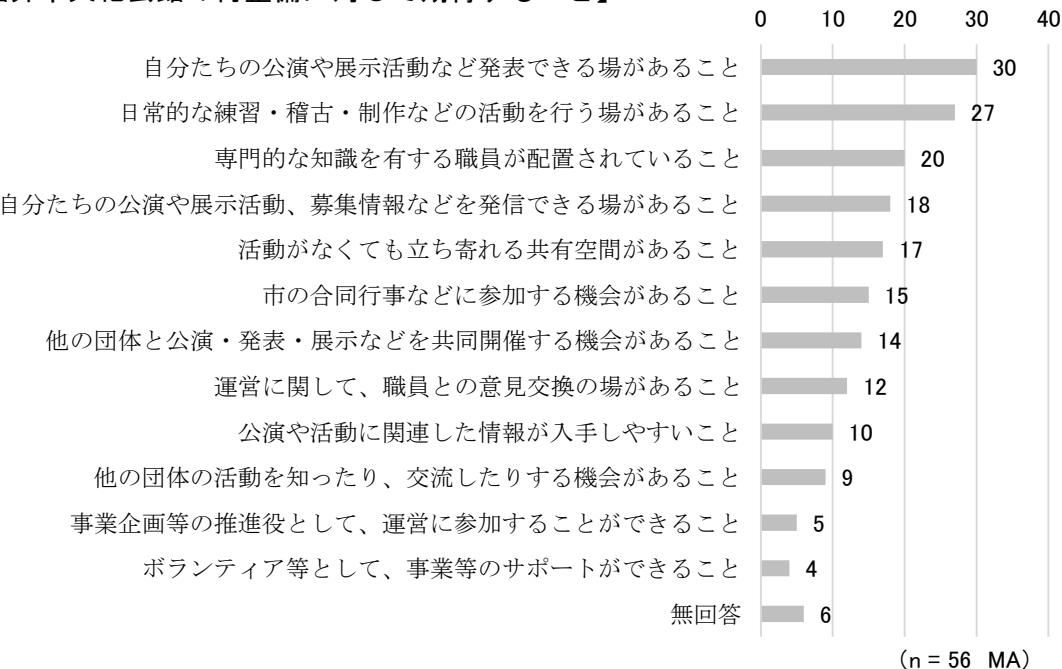
- 入場者数は、300人規模のものが約半数を占めています。
- 発表活動場所については、入場者数規模別では、
 300人以下: 福井県国際交流会館、福井県生活学習館、福井新聞社プレス 21
 301～600人: 福井県国際交流会館、福井市民福祉会館
 601～900人: 県立美術館
 を利用しています。

【文化団体の施設重視点】



- ・活動場所・発表場所に関しては、共通して利用料金が手頃であることが重視されています。
- ・立地・アクセスに関しても重視されています。

【福井市文化会館の再整備に対して期待すること】



- ・発表・活動の場を期待する声が多数あります。
- ・専門的なスタッフの配置を希望、発信の場の設置といった意見も多く見られます。

③市民アンケート

福井市内外の方への鑑賞ジャンル、よく行く施設、文化活動の有無、活動場所などインターネットによるアンケート調査を実施し、107名の方からの回答がありました。

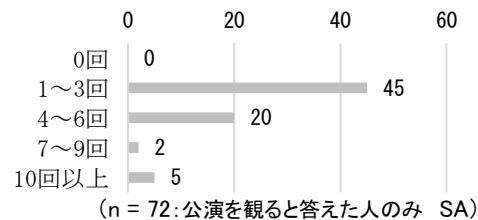
n:回答者数
SA:単回答
MA:複数回答

【年に一度以上、劇場・ホールに足を運び、公演をご覧になりますか】



(n = 107 SA)

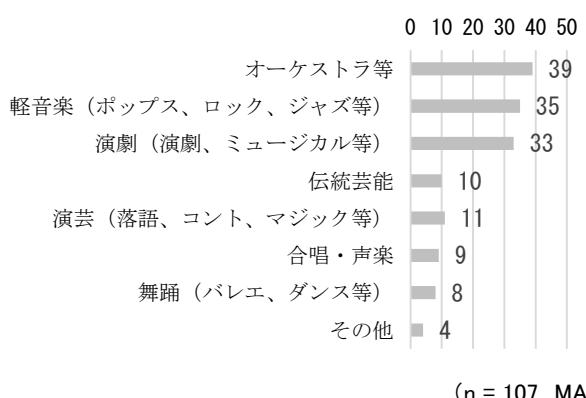
【昨年1年間に何回、劇場・ホールに行きましたか】



(n = 72:公演を観ると答えた人のみ SA)

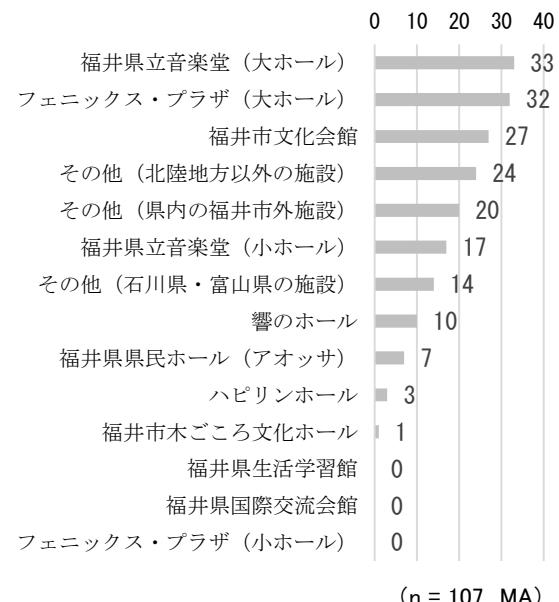
- 劇場・ホールに足を運ぶと回答した人は全体の70%程度です。
- 年間1~3回の頻度で行く人が多いようです。

【主な鑑賞ジャンルは何ですか】



(n = 107 MA)

【公演鑑賞でよく訪れる劇場・ホールはどこですか】



(n = 107 MA)

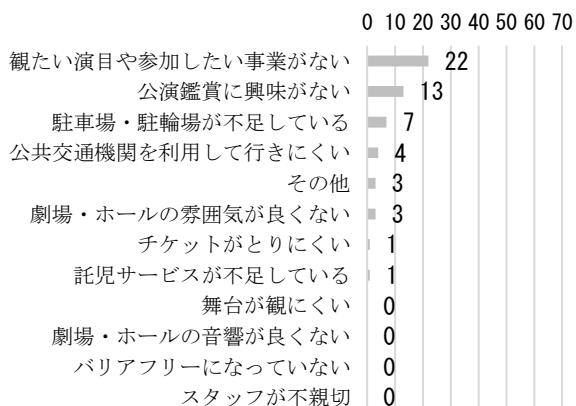
- 鑑賞ジャンルでは音楽（クラシック）、軽音楽、演劇が突出しています。
- よく訪れる施設は県立音楽堂（大ホール）、フェニックス・プラザ（大ホール）、次いで文化会館の順となっています。

【ホールをよく訪れる理由は何ですか】



(n = 72: 公演を観ると答えた人のみ MA)

【公演を鑑賞しなかった理由は何ですか】



(n = 35: 公演を観ないと答えた人のみ MA)

- ・観たい演目や参加したい事業があるのでホールを訪れるという声がほとんどです。
- ・観たい演目や参加したい事業がないため施設に足を運ばず、また公演鑑賞自体に興味がなく、ホールを訪れないといった声が多く見られます。

【福井市では、公演鑑賞について満足な機会や環境が提供されていますか】



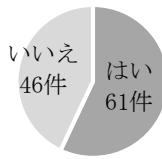
(n = 107 SA)

【福井市では、公演鑑賞について満足な情報が提供されていますか】



(n = 107 SA)

【福井市では、文化活動について満足な機会や環境が提供されていますか】



(n = 107 SA)

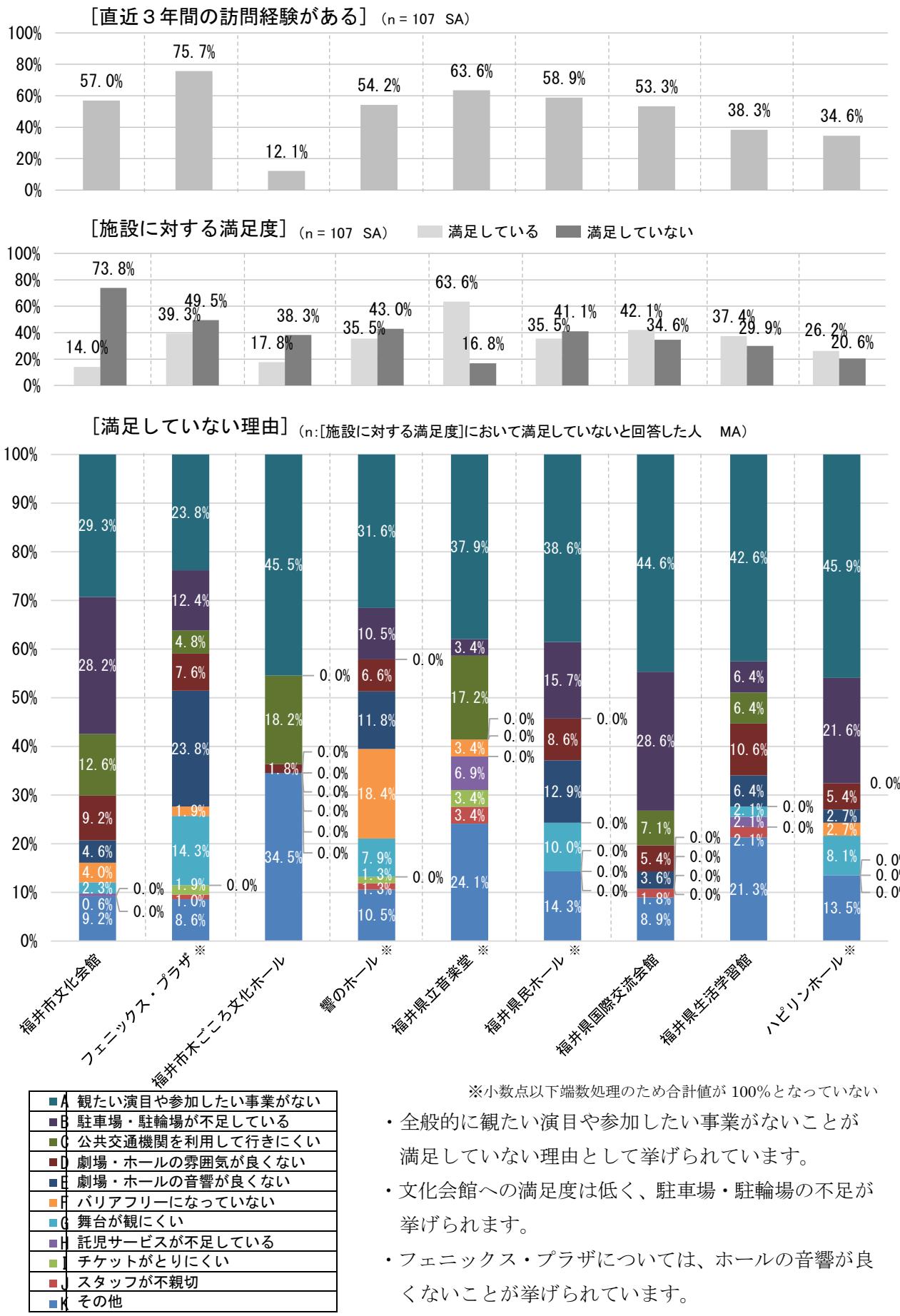
【福井市では、文化活動について満足な情報が提供されていますか】



(n = 107 SA)

- ・公演鑑賞の機会・環境については、満足していない人が約2/3となっています。
- ・文化活動の機会・環境については、満足している人が6割近くを占めています。
- ・公演鑑賞の情報提供には半数以上が満足しており、文化活動の情報提供については半数が満足しています。

【福井市内の文化施設・ホールについて】

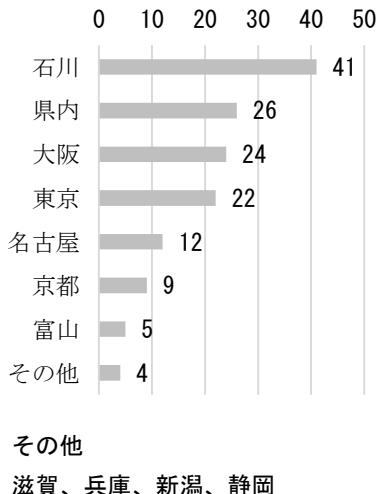


【福井市外の文化施設・ホールについて】

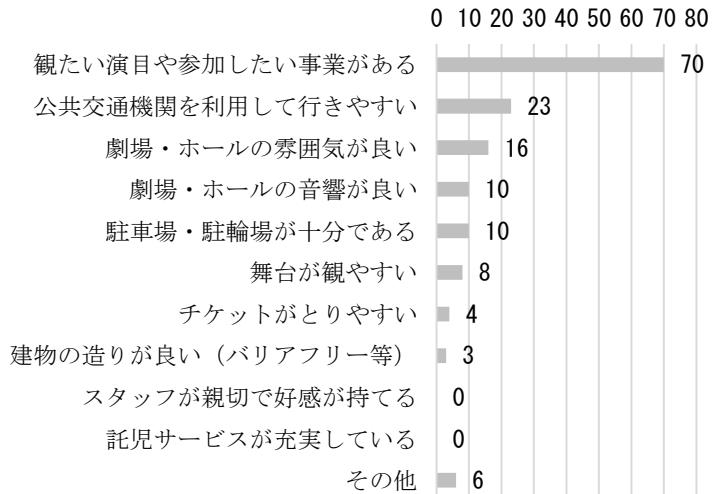
[福井市外の文化施設・ホール直近3年間の訪問経験]



[ホールの所在地]



[ホールを訪れる理由]

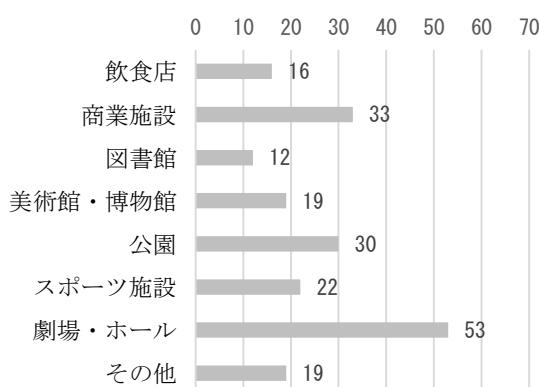
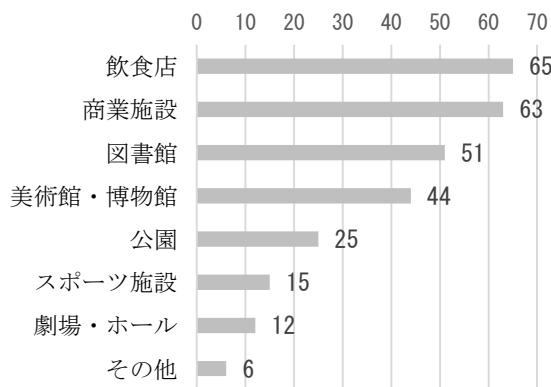


(n = 77: 福井市外の施設訪問経験があると回答した人 MA)

(n = 77: 福井市外の施設訪問経験があると回答した人 MA)

- ・福井市外への劇場・ホールを訪れる人と回答した人は約7割を占めています。
- ・石川、県内(福井市外)、大阪、東京が挙げられています。
- ・訪れる理由は、観たい演目や参加したい事業があることが多く挙げられています。

【余暇でよく訪れる福井市内の場所はどこですか】 【余暇を充実させるために福井市内でさらなる整備が必要だと思う場所はどこですか】



(n = 107 MA)

(n = 107 MA)

- ・余暇でよく訪れる場所は、飲食店や商業施設が多く挙げられます。
- ・整備が必要だと考える場所としては、劇場・ホールが最も多くなっています。

④市民ワークショップ

- ・第1回（平成28年11月16日）

【福井文化会館のいいところ】

- ・歴史があり、重厚感がある。
- ・劇場スタッフが親切。
- ・ピアノ、オーケストラピット等設備が揃っている。
- ・立地が良い、利便性が良い。
- ・市民参画の場がある。
- ・音響が良い。
- ・芸術文化の専用劇場である。
- ・1,000人収容が可能。

【福井文化会館の良くないところ】

- ・周辺に何もなく、立地が悪い、交通の便が悪く、駐車場が少ない。
- ・リハーサル室、練習室、楽屋等必要諸室が不足している。
- ・利用時間の制約がある。
- ・情報発信が少ない。
- ・市民が集いやすい雰囲気でない。
- ・収容人数が少ない。

- ・第2回（平成28年12月7日）

【文化会館でやってみたいこと、関りたいことは】

- ・施設のスタッフとして働く。
- ・芸術文化の人材育成。
- ・さまざまな事業。
野外コンサート、食イベント、講座、教室、アウトリーチ、ワークショップ 等。
- ・文化情報のアーカイブ設置。
- ・日常とハレの日が両立している場。
- ・市民が体験する場、交流の場をつくる。
- ・みんなが利用しやすく、市民のよりどころとなる。
- ・一流の芸術文化にふれ、感動と出会う。
- ・夢とロマンあふれる場。

【文化会館が将来、どうなっているといいか】

- ・子どもからお年寄りまで、皆が集い、出会い、つながるたまり場。
- ・市民の活動の拠点となる。
- ・福井県一の芸術文化がにぎわう場、福井のシンボルとなる。
- ・社会問題に取り組み、独自財源で運営する。
- ・施設周辺にも人が集い、人々の生活の中に文化施設がある。
- ・毎日何かをやっていて、いつでも誰でも使える場所になる。
- ・芸術文化のアーカイブがある。

【文化会館があることで、福井のまちや住民になにか変化がおきるのか】

- ・施設の周辺がにぎわい、経済が活性化する。
- ・文化会館がまちのシンボルとなり、当たり前の存在になる。
- ・明るく、豊かで彩りのあるまちになり、毎日が楽しくなる。
- ・社会や世界に目を向けるようになり、多様な文化、価値観を認める人が育つ。
- ・市民の主体性、自立性の促進。
- ・まちに何かをやろう、という人が増える。
- ・職場と自宅の往復だけでなく、生活スタイルの変化がおきる。
- ・文化力が向上する、誇れる福井になる。

・第3回（平成29年1月13日）

【年間利用計画をシミュレーションする】

■春（3～5月）

- ・合同入学式、入社式。
- ・コンサート。
- ・各種スクールの発表公演。
- ・お花見、ひなまつり。
- ・子ども向けイベント。
- ・落語祭り。
- ・演劇 WS。
- ・夜の映画祭。
- ・季節の食のまんじゅうまき。
- ・ギネスに挑戦。
- ・伝統芸能。
- ・ダンスパーティー。

■夏（6～8月）

- ・会館内外でたくさんのパフォーマンス。
- ・納涼歌舞伎。
- ・県民でつくる時代劇。
- ・子どもアートパーク。
- ・音楽イベント。
- ・夏休みお泊り WS。
- ・盆踊り、お化け屋敷。
- ・クラフト市（雑貨等）。
- ・（野外）青空図書室。
- ・オールナイトイベント。
- ・ファッショントヨー。
- ・周辺地域のイルミネーション。

■秋（9～11月）

- ・市民の文化祭。
- ・指揮者コンクール。
- ・練習できる場。
- ・市内の小中学校の学校鑑賞会。
- ・著名なミュージカル、オーケストラの公演。
- ・アートの祭典。
- ・伝統芸能。
- ・お笑いコンテスト。
- ・エルシステマ（音楽教育）。
- ・野外音楽祭、映画祭。
- ・ハロウィン、収穫祭。

■冬（12～2月）

- ・議会。
- ・結婚式、還暦式、合同卒業式。
- ・テーマ曲を作るWS。
- ・部活の練習、発表会。
- ・コスチューム作成WS。
- ・コンクール。
- ・市民創作オペラ。
- ・文化フォーラム。
- ・芸術イベント。
- ・食の大会。
- ・WS、講座、教室。
- ・人材養成講座。
- ・大仏と一緒に節分。

■通年

- ・会館を利用しない人や学生、親子のためのWS。
- ・サテライト同時上映。
- ・友の会の発足。
- ・緞帳コンテスト。
- ・バックステージツアー。
- ・一日館長。
- ・放送部のアナウンス。
- ・ワンコインコンサート。
- ・ロックフェス。
- ・市民参加による演劇。
- ・人材育成講座。
- ・文化芸術教室。
- ・ロビーコンサート。
- ・フリーパス。
- ・展示会。
- ・フリーマーケット。
- ・24時間マラソン、コンサート、映画など。
- ・アーティストと市民のWS。

5 エンターテインメント関連調査

福井県・福井市のエンターテインメント市場評価について、事業者等へのヒアリングを行いました。

【福井県・福井市の市場性】

- ・プロモーターにとって市場性がないわけではなく、興行に適した規模（座席数）や設備等が整った施設、宿泊場所が少ないことが課題。
- ・現状では、北陸三県（石川、富山、福井）の中で興行を行うとなつた場合は、最後の選択肢になることは否めない。

【興行利用に適した施設要件】

(キャパシティ・席数)

- ・1,000席では規模が不十分なためホールツアーの巡回先の対象にならない。
- ・1,500～1,600席程度の規模が歌舞伎や音楽公演に適した規模といえる。ただし、演劇には大きい。
- ・1,600席程度の規模なら、満席率を考慮しても利益を見込める。
- ・フェニックス・プラザと異なる用途の出来る施設とする方がよい。

(観客席)

- ・観客席はワンフロア、固定席が望ましい。

(ステージの広さ)

- ・メインステージは、開口12間、奥行き10間は必要。加えて、舞台袖や裏に充分なスペースが必要。

(搬入導線)

- ・1,600席規模のホールでは、プラットフォームを作る場合、11t車を2台付けられる搬入口が必要。あるいは、グラウンドレベルから直接フラットに舞台にアクセス出来るようにすることが必要。

(楽屋・ロビー等)

- ・楽屋については、冷房や洋式トイレ（ウォシュレット）等の設備が必須。
- ・グッズ販売はロビーを使うことが多い。
- ・ロビーには、チケットカウンターとしても使用出来るような、主催者事務室があると良い。

(施設利用料金)

- ・1,600席規模になる場合、1公演あたり40万円程度が良い。チケットの代金は1席6,500円程度とすることが多い。

(利用時間)

- ・22時の完全退館が義務付けられる施設もあるが、主催者にとっては利用しづらい。

(舞台設備等)

- ・あまり市民利用を想定した設計にすると、美術バトンや照明バトンの数が充分でない等、プロが使用しづらい施設になることがあるため、注意が必要。

(周辺施設)

- ・ホールの周辺には、飲食店（おしゃれなカフェやレストランなど）が立地していることが望ましい。

【福井市内で興行利用される施設】

- ・ロック・ポップス等の音楽ジャンルが多く、市内のホールではフェニックス・プラザ（約2,000席）の利用頻度が高い。
- ・ライブハウスとしての利用や小さな規模の興行の場合には、響のホールが利用される。
- ・全国をまわるドームツアーでは、サンドーム福井が利用される。
- ・福井市文化会館は、現在はフェニックス・プラザよりも少ない集客見込の興行を行う施設、又はフェニックス・プラザの代替として位置づけられている。

6 MICE 関連調査

文化会館のMICEとしての評価について、事業者等へのヒアリングを行い、文化会館をMICEに利用する視点から見た現状とマーケットとしての分析を行いました。

【文化会館の現状】

- ・主会場としてのキャパシティは十分であるが、固定席でありレイアウトの変更要求に応えることができず、柔軟性が低い点は課題。
- ・市内に同規模の会場が他にもあり、アクセスの悪い文化会館を紹介することは少ない。
- ・文化会館に休憩できる場所や物産販売スペースを設ける場所がないことは課題。
- ・懇親会の開催にあたって、施設内にパントリー（配膳スペース）があれば十分。パンケットルーム（飲食のためのスペース）があるとさらによい。

【MICEのマーケットの概況】

- ・全国に多数のMICE施設が建設されているものの、1,000人超規模のMICEは増加しておらず、誘致は厳しい競争の中にある。
- ・地理的条件（都心からの移動時間）と知名度から大規模MICEの積極的誘致は難しい。

福井市文化会館整備基本構想

発 行：福井市 商工労働部 観光文化局 文化振興課

〒910-8511 福井県福井市大手3丁目10番1号

TEL:0776-20-5367 FAX:0776-20-5670